農畜産物

畜産がけん引、総重量は高水準 食料自給率は122%

十勝管内の2020年産農畜産物の総重量は、前年比0・2%減の約455万㌧となった。記録が残る13年以降では、17年産（460万㌧）、19年産（456万㌧）に次ぐ水準。耕種（畑作）では天候不順の影響もあったが、規模拡大が続く畜産が全体の数字をけん引した。

ホクレン帯広支所が推計している総重量はビートや生乳など重さのある品目や作付面積が大きい品目の収量が良いと、増加しやすい。

耕種全体では、2%減の31万8万㌧。20年は4～6月が干ばつ傾向、その後も雨や日照の不足が極端な天候で、収量にも影響した。

総重量が最も大きかったのがビート。8月中・下旬以降の天候が良かったことで根周の肥大につながり、1%増の172万800㌧。

豆類は9%増の8万2000㌧。ホクレンによると面積の増加により、小豆が7%、大豆が9%伸びた。

畑作4品のうち、減少したのが小麦とジャガイモ。小麦は10%減の22万8000㌧。平年作を確保したが、19年が豊作傾向だったため前年比では減少した。ジャガイモは干ばつなどが影響し、イモの数が少ないため8%減の82万2000㌧。

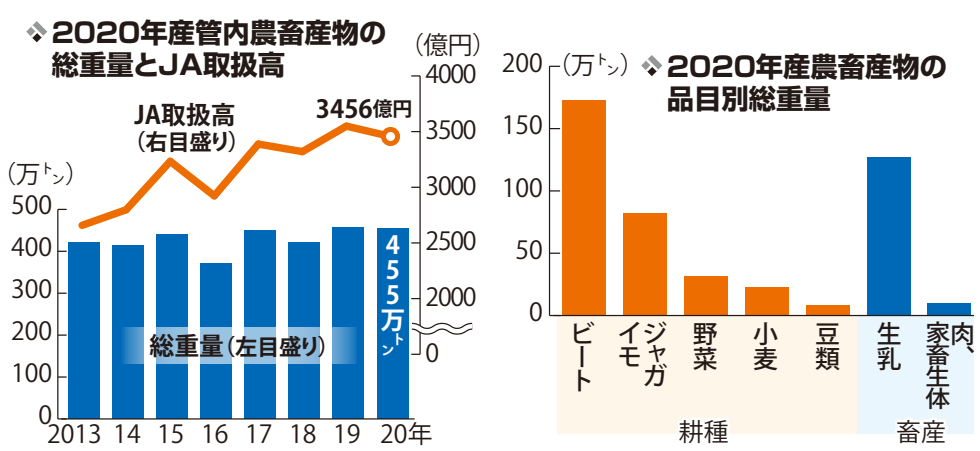
野菜は3%増の31万7000㌧。直径が太い新品種「とかち太郎」が導入されたナガイモ、面積が増えたタマネギがともに9%伸びたほか、ニンジンも2%増加した。

畜産部門は4%増の137万㌧。うち生乳が127万㌧（4%増）となっている。酪農家の規模拡大で搾乳牛が増えているほか、牧草、デントコーンの収量や品質も平年並みに確保されている。牛肉、豚肉、家畜生体の合計は5%増の10万㌧となった。

フードバレーとかち推進協議会（会長・米沢則寿帯広市長）が発表する2020年の十勝の食料自給率は、カロリーベースで122%だった。



根の肥大が進み、収量が確保されたビート（昨年10月、帯広市）



お砂糖はやっぱり スズラン印
ひっぱりくんにプラス!!
動力で らくらく～
後進専用
HPD-3G
ひっぱりくん®
動力ユニット
前後進選択 HPD-2G
日本甜菜製糖株式会社
Nippon Beet Sugar Manufacturing Co.,Ltd.
紙筒事業部 札幌営業所 札幌市中央区北3条西4丁目1-1 ☎011-261-6142
ペーパーポット 検索 http://www.paperpot.jp/

ロール式施肥播種機 対応種子：ビート・大豆
FSS-4（4畦）
●高速播種を実現（8km/h以下）
●ダブルタンク仕様で少量施肥にも対応
メイン：20kg～
サブ：20kg～
●播種部にロール式を採用
〈オプション〉
播種ロールを変更して大豆播種が可能
◆7mm・2粒播き
◆10mm・2粒播き
ロール式施肥播種機のお問い合わせは
サークル機工株式会社
帯広営業所 帯広市稲田町南9線西13番地1 ☎0155-66-9451
本　　社 滝川市幸町3丁目3-12 ☎0125-22-4350
サークル機工 検索 http://www.circle-kiko.co.jp/